

ボランティア・ニュース 第6号

シリーズ 博物館の展示

「海を測る」

海を測ることがなぜ必要なのか。

私たち人類は、自らが住む太陽系第3惑星地球を美しい「水の惑星」として自賛して来ました。しかし、人類はその歴史の中で便利さと快適さを追及するあまり、この美しい地球の自然環境を破壊し、20世紀末には深刻な環境問題を生み出してしまいました。一方で、世界の人口増加に伴い、地球上のありとあらゆる資源が枯渇の危機に瀕しているのも事実です。人類が21世紀を生き抜くためには、この「資源と環境」問題の解決が必須事項であるといっても過言ではありません。

幸い、「水の惑星地球」には表面積の約7割を占める「海洋」があります。この海洋には、無限の未開発資源が眠ると共に、環境を保全するための様々な役割が備わっています。海底には、メタンハイドレートのようなエネルギー資源、マンガン団塊やコバルトクラストなどの金属資



源、銅・亜鉛・金・銀を産する海底熱水鉱床など、多くの未開発鉱物資源も発見されています。日米による対等な資金提供で開始したIODP(統合国際深海掘削計画)は、これまで困難だった深海での地下7,000mに達するボーリング可能にし、人類未踏の地下深部の岩石採取に加え、海洋底におけるプレートテクトニクス活動、過去における地球環境の変遷の解明、地下深部の微生物活動の探究や巨大地震の原因を探る期待がもたれています。また、現在活発な熱水活動を続けている。

前述の海底熱水鉱床では、単に鉱物資源の形成のみならず、生命の起源に迫る興味深い研究も展開され始めています。

このほか、ここでは各種抗生物質の抽出に貢献している海藻や世界に誇る魚類標本とデータベース、海鳥の行動研究の紹介も行っています。この「海洋」展示スペースでは、前述の様々な項目の紹介に加え、液晶ディスプレイによる各種映像放映や実験装置も実際に動かしています。(文責：松枝)

「21世紀 COE プログラム」

文部科学省による新規事業としての21世紀COEプログラムは、北海道大学では平成14年度に4課題、平成15年度6課題、平成16年度2課題の合計12件が認められ、我が国をリードする多彩な先端的な学術研究が進められています。この展示スペースでは、1課題につき3パネル単位で、それらのプロジェクトの概要を紹介しています。



「宇宙」

北大では、苫小牧演習林に直径 11m の電波望遠鏡が設置され、遠い宇宙に目を向けた壮大な研究が行われています。展示では、この電波望遠鏡の紹介だけでなく、日本が世界に誇るハワイ島マウラノア山頂にある“すばる”望遠鏡が撮映した素晴らしい星の画像放映も行っていま

す。

平成 18 年度末には、新たな 4D(立体映像)シアターの設置に加え、本格的な「宇宙」の展示を完成させる準備を進めています。乞う、ご期待！（文責）松枝）

2006 年 企画展示 - モンゴルの恐竜展 -

2006 年 7 月 22 日から 8 月 26 日の約 1 ヶ月、「モンゴルの恐竜 - 大型恐竜と鳥類の進化 -」が開催されました。これは去年の夏のマンモス展に続く大型企画展示となります。また、月寒グリーンドームでの「こども未来博」と円山動物園での「化石探検学覧会」という化石に関連するイベントと協調開催というのも新しい試みでした。普通、恐竜の展示というのはレプリカを展示することが多く、特に全身骨格はほとんどの場合レプリカです。これは貴重な標本に対する安全性の面と単純に本物の化石が重すぎることの 2 つが主な要因です。しかし、本展示ではそのほとんどが実物化石であり、ガリミスやイグアノドン類の全身骨格でさえ実物でした。私自身、今回の準備において初めて恐竜骨格の組み立てに参加し、非常に貴重な体験ができました。また、本物の化石に触れるコーナーが人気だったことを思うと、やはり本物に勝るものは無いということが強く実感できました。これを機に子供たちが自然や科学の面白さに興味を持ってくれれば幸いです。



去年同様、所属グループを問わずボランティアの会の皆さんには博物館および月寒で、解説員および監視員としての協力をしていただきました。貴重な標本ばかりでしたが大きなトラブルも無く、来客者アンケートでは概ね好評を頂きました。ご協力ありがとうございました。

ボランティア化石グループ・リーダー 相原大介

入館者は約 2 万人、ボランティア 32 名が大活躍

マンモス展に比べてメディアに登場する機会が格段に少なかったモンゴル恐竜展ですが、本物の魅力が、はたまた札幌市地下鉄主催で北大総合博物館やグリーンドーム、丸山動物園など 5 ヶ所を廻ってスタンプを集めるスタンプラリーのおかげか

沢山の人が来てくれました。中には夏の北大には何かがあるとホームページで検索して来た大阪からの観光客も。お手伝いしてくださった 32 名のお名前は活動記録を見てね。

昆虫観察会 in 野幌森林公園

昆虫ボランティアの久万田元会長のホームグラウンド・野幌森林公園で 7 月 21 日、7 名が参加して昆虫観察会をしました。北海道固有のサッポロマイマイやエゾマイマイなどのカタツムリ、札幌フキバツタ。スズメバチに擬態したハチなど、今まで何気なく見過ごしていた昆虫に目をこらしたり、草の名前や食性を教えてもらったりして楽しみました。まむしぐさという名前の花にはびっ

くりしました。

最新の捕獲網でミドリシジミやクジャクチョウを追っかけて楽しんだ人も。

最後は公園そばの隠れ家で手打ち蕎麦を堪能。昆虫が活躍する 6 月頃が一番の見頃だとか。来年もしたいねとは参加者の声。先生よろしく御願います。（永山 修）

「北大の山小屋」 第5回談話会より

「北大の山小屋展」2006年7月4日(火)～9月3日(日)まで開催されています。

8月18日5棟ある北大の山小屋の変遷・経緯現況等々を、在田会長から談話会の形で解説がありました。談話会ですので我々ボランティアも、解説の途中でいろいろな事をお聞きしながら、和



気藹々楽しい一時の勉強時間でした。

テイネ・パラダイス・ヒュッテ (テイネハイランドから徒歩20分の所にある。1994年再建された。1996年11月16/17日「八の会」山岳研修会が講師6名大須田会長以下18名の会員で研修が行われた。地下室のストーブを円

座に囲み、寝袋に潜りトドのように転がって寝た事など思い出深いものがあります。建ってまだ2年木の香新しい非常に設備の整った小屋でした。)

空沼小屋 (空沼岳への登り登山道右手万計沼の傍にある。空沼岳山頂からは一跨ぎで行けるのではと思う程近くに小漁岳が見える。) 無意根小屋 (大蛇が原湿原より少し登り無意根山の直ぐ麓にある。昼食で使わせて頂いたが、学生が非常に綺麗に管理していた。)他に奥手稲山の家、ヘルヴェチア・ヒュッテ有り。

ボランティア 齋藤美智子

スーパーサウルスはおっきかった

東京に出かける機会があったので、幕張で開催されていた2006恐竜展に行ってきました。目玉はスーパーサウルス。これがほんとに大きい。なんと広い会場いっぱいにもこれでもかと言うくらいの恐竜たち。今回初めて展示されたものもあって、解説テープを聴きながら「あっ、これは本物だ。」「これも初めてだっ」といいながら見て回りました。幕張で北大博物館で会った親子連れにバッタリ出会ってほんとにびっくりしました。何億分の一の確立か判らないけど不思議な恐竜の取り持つ縁でした。

モンゴルからの出展はなく、内モンゴルの恐竜たちが徐星博士の解説付きで沢山展示されていました。

出口付近には全国の博物館ポスターが。なんと北大博物館が大学博物館を“代表”して張り出されていました。次の日には日本科学未来館からの招待状を活用して、「マンモスからの警告」も見学。所々に北大の研究者名と博物館名の入ったパネルもありました。2ヶ所とも全国に北大博物館を発信していて、ちょっと誇らしい気がしました。

(永山 修)

第6回談話会が決まりました。

と き：平成18年10月27日(金) 16:30～18:00

と ころ：総合博物館ボランティア室(3階 N302号室)

お話し：「アルバトロスの島で暮らして」

沼田 勇美 さん

沼田さんは元気象庁職員。無人島の鳥島で6ヶ月間観測所暮らしをしていた経験があります。鳥島は、一度は絶滅したといわれたアルバトロス、あの海の女王、あほうどりが暮らしている島です。

かつては50羽ほどしかいませんでしたが、今は5000羽ほどに回復しました。

厳しい島の暮らしや、あほうどりの事など豊富な資料でお話しして下さる予定です。

ボランティア室の利用について

担当の天野先生と大原先生から「新任教員の着任に伴って、留学生グループが使用している部屋が使用できなくなったので、留学生グループにも N302 を使用させて欲しい」と事務局に要請がありました。事務局としては同じボランティアグループとして使用は当然の事であるが、生活習慣の違いなどからトラブルのないよう留学生グループの代表と話し合いを持ちたいと要望しております。まだ先方の都合で話し合いは持てていませんが、N302 の利用ルール等を作成したいと思っております。事務局宛にご意見をお寄せ下さい。

不審者出没・ご注意！！

先日受付付近に不審者が現れました。既にメール等で注意が喚起されていますが、警報ベルが鳴ったらすぐに1階、3階受付付近に駆けつけて下さい。また不審者を見かけたら事務室に連絡等御願いたします。

7月～9月の活動報告

「モンゴル恐竜展」では在田会長を始め持田さん、中野さん、星野さん、寺西さん、村上さん、鳴海さん、相原さん、成田さん(真)、成田(敦)さん、高橋さん、石橋さん、望月さん、林さん、箕浦さん、合田さん、鈴木さん、松舟さん、田中さん、細川さん、板垣さん、清水さん、沼田さん、村井さん、斉藤さん、安田さん、岡田さん、越前谷さん、永山さん、千葉さんが組立、監視、解説、撤収などに奮闘しました。また北海学園大の学芸員コースの江越さん、寺田さんもボランティア活動として監視役に参加しました。皆さん、本当にご苦労様。

「化石」では、中野さん、寺西さん、安田さん、石橋さん、細川さん、江越さんがクリーニングや化石整理をしました。

「展示解説」では星野さん、望月さん、中野さん、沼田さん、村井さん、広永さん、寺西さんが小中学生を中心に、来館者に解説をしました。

植物標本グループでは、持田さん、星野さん、加藤さん、佐藤さん、笈田さん、伊澤さん、国安さん、山室さん、中谷さん、成田さん、川角さん、岩崎さん、庄山さん、荻野さん、神谷さん、山田さん、松田さん、岩瀬さん、寺田さん、畑中さん、鈴木さん、堀江さん、吉原さん、津久浦さん、武良さんが標本整理や植物採集をしました。

鉱物グループでは岡田さん、佐々木さん、寺西さん、安田さん、鳥本さんが誕生石展や展示替え等に奮闘しました。

昆虫グループではファーブル関係の昆虫整理を中心に久万田元会長、青山さん、宮さん、永山さん、稲荷さん、広永さん、松本さん、喜多尾さん、小原さん、櫛引さん、長尾さん、須長さん、梅田さんが標本作りに奮闘しました。

考古グループでは学会のお手伝いなどに斉藤さんが参加しました。

(お名前は順不同です)

ボランティア・ニュース

編集・発行

北海道大学総合博物館ボランティアの会
(担当者:星野、沼田、永山)

発行日:2006年9月

連絡先

060-0810 札幌市北区北10条西8丁目

ボランティアニュースは下記の北大総合博物館ホームページからもご覧になれます。

<http://www.museum.hokudai.ac.jp/>